



# 農繁期目前“油漏れ”対策万全ですか？



今年も田植えの時期が近づきましたが、現場の機械や発電機からの油漏れ対策行き届いてますか？  
漏れた油が河川に流れ込めば、取り返しのつかない大きな被害をもたらすこととなります  
ようやく桜の季節がやってきたというのに事故を起こしてしまつては、無事故で過ごした  
冬の苦労もむくわれません、ここで今一度漏油防止対策の再チェックを行いましょう！



## 🚫 漏油事故の事例

8インチ水中ポンプを24時間稼働させるための電源として  
リース会社が設置していった発電機の増設タンク(490L  
入り鋼製タンク)から発電機内へと燃料を送るホースの  
ジョイントが十分に締められていなかったらしく  
振動で徐々に発電機内部の接続部から漏れはじめ、約20L  
程度が隣接する河川に流出した。(発電機には防油堤無し)

## 😊 事故防止のために

燃料配管、特にホースに損傷がないか毎日確認し  
タンクと発電機に十分な容量の「防油堤」を備える  
➡️ 又は「防油堤(キャッチタンク)」を内蔵した発電機を  
選ぶ→ 商品名: **防油堤付発電機**  
油吸着材、オイルフェンスの常備と  
使い方の把握を行う



油漏れ対策は、漏らさない対策と、事前の備えが不可欠です

増設タンクにも防油堤を  
設置しておきましょう



休憩所用の燃料も  
こうしておけば安心



リースの処理BOXを  
備えておきましょう



燃料だけでなく  
油圧ホースも毎日点検!



← 使  
い  
方  
の  
訓  
練  
を  
し  
て  
お  
く  
こ  
と  
!

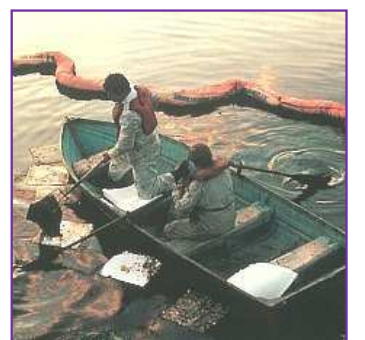
Q&A 皆さんからいただいた、現場における安全管理の疑問についてお答えするコーナーです

Q 燃料や油圧の作動油が漏れた場合、「中和剤」を撒くことは適切な処置なのか？

A 一般的に「中和剤」と呼ばれている液体の「油処理剤」ですが、油を中和して無毒無害な物質に変化させるのではなく、水中に油を拡散させるものであっていわゆる界面活性剤であり、油を細かい粒子にして微生物により分解されやすくする効果をねらった物質です

ということは結果として、水中に拡散されるだけで、油そのものが無くなるわけではなくさらに界面活性剤によって白く濁った水が広範囲に拡がり、收拾がつかなくなる恐れの方が高く、流出した油の処理としては適した方法ではないということになります。しかも微生物による分解という効果も“海”のような場所でなければ期待できませんから河川で中和剤を使用した場合は、かえって多方面に被害を及ぼす結果になります。

油  
処  
理  
剤  
毒  
性  
有  
り



👉 **結論として「中和剤(名前のような効果はありません)」は河川において使用するべきではありません**  
👉 **漏れた油の処理は「吸着剤」を使用して処理するように、処理方法を統一する必要があります**

油の吸着剤も現在さまざまな製品が市販されていますが、性能と使いやすさを考慮して選定したものを備蓄しておき、万が一のときすぐ現場で使用できるようにしておく必要がありますね。(もちろん漏らさないための点検管理と細心の取扱いが一番大切ですが)

吸着剤の種類と用途の目安としては

- ・ 河川や地下への流出 → オイルフェンスで流出を止め吸着シートで回収する
- ・ 道路上での漏油 → 粉末状の油吸着剤を撒き、箒とチリトリで回収する



※オイルフェンスには効果的に回収するための張り方があります、詳しくは当社安全教育資料「オイルフェンスの張り方」参照